

M9.0に修正

東日本大震災 阪神の1450倍規模



地震発生から3日目になっても白煙が上がる宮城県気仙沼市。13日午前9時4分、本社機から、上田潤撮影

気象庁は13日、東日本大震災の地震の規模を示すマグニチュード（M）を8.8から9.0に変更したことを明らかにした。

マグニチュードが0.2大きくなると地震のエネルギーは2倍になる。今回の地震のエネルギーは、関東大震災の約45倍、阪神大震災の約1450倍になる。

マグニチュード9.0は、1900年以降に起きた地震では、1960年のチリ地震（M9.5）、64年のアラスカ地震（M9.2）、2004年のス

マトラ沖地震（M9.1）に次ぎ、1952年のカムチャツカ地震（M9.0）と並ぶ。

東日本大震災の死者や行方不明者が増え続けている。警察庁などによると、地震による死者は13日午前10時現在、岩手、宮城、福島、茨城、東京など12都道県で763人。行方不明は6県で639人。このほかにも100人単位で遺体が見つかったとの情報が複数の自治体にあるほか、宮城県南三陸町では約1万人と連絡が取れない状況が続いている。